

リサイクル、ごみ減量に取り組みましょう!

◆市民課環境係 ☎40-8256

新年度が始まり、引っ越し等によってたくさんのごみが出る時期です。忙しい中ではありますが、限りある資源を大切に、リサイクルやごみ減量に積極的に取り組みましょう。

ごみが多くなれば、焼却等の処理に伴って温室効果ガスの排出も多くなります。環境を守るために、もう一度ごみの分け方を考えてみましょう。

①小型家電のリサイクルにご協力ください!

生活家電は、不燃ごみとしても捨てることができますが、「小型家電」として資源リサイクルに回せるものが数多くあります。市では小型家電回収を年1回行っており、市民の方は無料で小型家電を出すことができます。携帯電話やパソコン、プリンター、その他家電等ご自宅に眠っていませんか?是非、小型家電のリサイクルにご協力ください。

※詳細な日程・会場・回収品目については決まり次第市報等でお伝えいたします。



②プリンターのインク、電子機器のコードを無料で常時回収しています!

使用済みのインクカートリッジ、電子機器のコード(ケーブル)を無料で回収しています!インクは市役所と各地区の公民館、電子機器のコードは市役所で回収しています。開庁時間は常に回収していますので、是非ご利用ください!詳細は市ホームページをご確認ください▶



インクカートリッジ

コード

この他にも空き缶やペットボトル、食品トレイなどごみ収集所に出せるものは資源ごみやペットボトル・プラスチックにしっかり分別して積極的にリサイクルし、環境にやさしい市を目指していきましょう!

📖 おすすめの一冊「えくぼの本棚」

『ジブリの食卓 魔女の宅急便』

スタジオジブリ/監修 主婦の友社/発行
かぜをひいたキキに、おソノさんが作ってくれたミルクがゆ、ニンシとかぼちゃの包み焼き…。物語の中に出てくる料理を作ってみませんか?親子で作れる、児童向け料理レシピ絵本です。



図書館

南陽市立図書館
ようこそ ☎43-2219

- 開館時間 火～金曜、3日(金) 10時～20時
土・日曜、4日(土)、5日(日)、6日(月)
10時～17時
※18日(土)はワインフェスティバル開催のため正午閉館です。
- 5月の休館日 7日(火)、13日(月)、20日(月)、27日(月)

📖 新着図書紹介

※他にも多数の新着図書を取りそろえています。

- 一般書
 - 碧空の音/あさのあつこ ■しをかくうま/九段理江
 - 極狭キッチンで絶品!自炊ごはん/きじまりゆうた
 - ここからはじめる書道入門 新版/田中鳴舟
- 児童書
 - ミリとふしぎなクスクスさん/戸森しるこ
 - あなたにぴったりのふくつくります/小淵もも
 - はじめてのアルゴリズム/島袋舞子

📖 おはなし会(児童コーナー)

- 児童コーナーで開催します。どなたでも参加できます。
- おばあちゃんのおはなし会(更生保護女性会) 5/4(土)11時
6/1(土)11時
 - どんぐりおはなし会(どんぐりお話し会) 5/11(土)11時
 - しんちゃんおはなし会(しんちゃんお話し会) 5/25(土)11時

📖 市立図書館おたのしみ会

5/18(土)11時

食改さんの おすすめレシピ♪

「簡単おやつ」編

納豆UFOピザ

材料(4人分)

- 餃子の皮 8枚
- とろけるチーズ 40g
- 納豆 40g
- しょうゆ 小さじ1
- 万能ねぎ 10g
- ごま油 小さじ2



作り方

- ①万能ねぎは小口切りにする。
- ②納豆にしょうゆと万能ねぎを混ぜる。
- ③餃子の皮2枚を重ね、ねぎ納豆をのせる。
- ④フライパン(またはホットプレート)にごま油を薄くしき、③を並べて焼く。
- ⑤チーズが溶けて皮がパリッとしてきたら出来上がり。

ワンポイント

しらすとチーズをのせても簡単においしくできます。



沖郷地区食改の皆さん

市食生活改善(母子保健)推進員連絡協議会

◆事務局・すこやか子育て課すこやか係 ☎40-1691

子育て

健康・福祉

お知らせ

募集

講座・催し

巻末連載

赤湯小学校6年(現中学1年)

岡崎 達也^{たつや}さん

「神の子たちを読んで」



第37回(令和5年度)

須藤克三賞 最優秀作品紹介

[読書感想文の部]

小学校高学年の部 最優秀作品

「日本国家存亡」のとき、諸君は大君に召されて、神の子となり、この決戦を打開するのである。諸君は、桜の花のように散ることができて幸せである。神の子は死して生きられるのである。」

ぼくは、「神の子たち」という本のタイトルがカッコよく思えて、ただそれだけの理由で手に取った。だけど、ぼくの想像とはかけはなれた悲しく辛い辛い出来事がつづられていた。

この本は少年特攻兵だった田坂さんの体験談がもとになった本で、特攻兵の当時の生活が生々しく書かれていた。

少年特攻兵たちは、食事は玄米飯をお椀に軽く一杯とみそだけの汁を与えられ、あばら骨が浮き出るほどやせこけていたそう。また隔離されていて外からの情報は一切閉ざされている中で厳しすぎる訓練を受けていた。

そのような死に直面する状況で、冒頭の言葉を上官からくり返し聞かされ続けられたのだ。スマートフォンで何でも調べられる時代でもなく、たった十五歳で大人から毎日のように同じことを言われ続けられたら、それが正しいか正しくないかわからなくなるだろう。

田坂さんは、国のために死ぬことを美しいことだと考えていたそう。しかし、敵である米国兵が捕虜となって目の前で

虐待されるのを見て、初めて恐怖感を覚えたのだ。

いよいよ特攻目前の八月六日、むらさき色の光とごう音が響いた。海に向こう広島に原子爆弾が投下されたのだ。田坂さんたちは救援兵となり、終戦を迎えたのだ。原爆の前では、大人も子供も一瞬で命を落としてしまった。ぼくには想像できない。なんておそろしい状況だったのだろう。

戦争を体験したことがある人が、ぼくの周りにはいないし、授業でも戦争のことを少し習っただけだ。田坂さんの体験談はたったの十四ページだけど、それでもこんなに恐怖を覚えた。うまく言葉にできない。胸がむかむかして、苦しくなるような、そんな気持ちになった。

今もロシアとウクライナの戦争が続いていて、毎日テレビのニュースで流れている。ぼくはそれを見ながら夕飯を食べることがある。テレビの向こうで、家族や住むところを失った人、けがをしている人、食べ物に困っている人、苦しんでいる人がたくさんいることを想像してこなかった。エアコンの効いた涼しい部屋でおいしいご飯を家族そろって食べていられることにとても申し訳なく思った。田坂さんのように苦しい思いをした人がたくさんいたからこそ、ぼくたちは

今平和に暮らしている。

みんなの同じ命をお互いに大事にする。その気持ちを、ぼくはずっと忘れないようにしようと思う。

書名 語りつぐ戦争体験5

神の子たち

著者名 田辺 徹

発行所 株式会社 草土文化

須藤克三賞について

宮内町(現南陽市)生まれの郷土文学者、須藤克三先生のご功績をたたえ、市制施行20周年記念事業として昭和62年に創設されました。

